

庄内青少年

第113号

発行 □庄内地方青少年育成連絡協議会 □庄内地方青少年育成推進員連絡協議会



特別寄稿

頑張ろうとする力を育てたい

念珠関辨天太鼓創成会

代表 鈴木泰蔵

念珠関辨天太鼓創成会は平成三年に発足して今年で三十四年目を迎えました。その中の子供会は平成五年に発足し、現在、保育園の年長さんから小学校六年生までの二十三名で活動しています。

保育園児のアブラコチーム、一・二年生のアオコチーム、三・四年生のイナダチーム、五・六年生のブリチームの四チームに分かれて、各チーム週一

回から二回、一時間の練習を行っています。

年間の発表は十五回くらいで、主に地元のイベントなどで演奏しています。また、全国ジュニアコンクールにもチャレンジし、山形県大会、東北大会と出場させていただいています。

辨天太鼓が一番大事にしていることは、挨拶は相手の目を見て元気よくすること、人の話は目で聞くこと、必ず靴をきれいに揃えること。この三つのことを重点に指導を行っています。感謝の気持ちがあれば誰でもできることで、何よりこの三つをしっかり行っていれば太鼓だけでなくどんな習い事をやっても上手になることができ、大人になってもとても良い財産になると指導しています。

和太鼓は、音符の長さや強弱だけで表現する楽器で、バチを握った時から誰でもすぐに音が出て演奏が出来ます。ただし、シンプルながらも音量が大きいために、人数が多くなればなるほど音を合わせることが難しくなりま

す。子どもたちには、楽譜の間違ひは気にせずにお客様の顔を見て最高の笑顔で一打一打を伝えるように力強く叩かせています。

すぐにできる子、なかなかできない子がいますが、一番大切なことは上手に叩くことではなく頑張ろうとする気持ちを持続することだと思います。

この先、中学生になれば部活動や受験勉強など、辛く感じることもあると思います。社会に出てからも同じです。そんな時に逃げずに壁を乗り越えていける人になってほしいと思っています。

近年は、少子化がどんどん進んで地域での活動が大変になってきました。でも、これからも和太鼓を通して子どもたちと一緒に私たち指導者も成長していきたいと思っています。



念珠関辨天太鼓創成会（鈴木泰蔵代表）は、地域に根ざした充実した青少年育成活動が認められ、令和六年度庄内地区「青少年育成模範活動支援団体」に選ばれています。

青少年育成への提言

鶴岡市全体の活動としては、まず毎年五月の鶴岡市子どもまつりに参加しています。数年前までは、プロジェクトチームを組んで数日間かけて魚のアラを入れたカゴを市内某所に仕掛け八百匹ほどのアメリカザリガニを捕獲し、ザリガニゲットコーナーでザリガニ釣りを行っていました。外來種の駆除の行為に反する等諸般の事情により捕獲は相応しくないとになり、令和五年より金魚すくいコーナーに変更しました。

金魚すくいコーナーは子どもたちにも人気で、今年度は好天にも恵まれたこともあり千三百人も人が集まり大盛況となりました。当日の運営



鶴岡市の活動について
鶴岡市青少年育成推進員連絡協議会 会長 三浦 孝

には推進員はもちろんのこと、高校生ボランティアにも手伝っていただき、成功裏に終わりました。

十一月には青少年を守る店運動として、数人を一グループとし五〜六グループに分かれて市内のコンビニエンスストア・カラオケ店・ドラッグストア等の青少年が立ち寄りそうな店舗を回りポスター掲示を依頼し、啓発運動を行っています。

一月には青少年ステージパフォー各小学校区でも「ざっこしめ」や「だがしや楽校」等の事業で、推進員が高校生が主体となって大活躍し、笑顔いっぱい活動となりました。

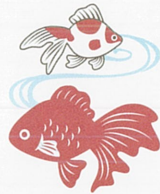


地域の子どもたちをあてにしてみようか？
酒田市青少年育成推進員連絡協議会 会長 蘆田 厚子

「さんかする」「かたる」「たのしむ」をモットーに、二か月に一度の定例会、夜間指導や列車乗車指導、各研修会への参加やボードゲーム体験、酒田市子どもまつりなどを行っています。

「酒田市子どもまつり」の青少協のブースでは、酒田の子どもたちにとくさんの笑顔をお届けしています。折り紙色紙づくり、輪投げ、そして高校生ボランティアのコーナー。今までは、お手伝いという形で加わってもらっていたのですが、昨年から高校生たちが自分で考え自分たちでやる主体的な場になりました。「五月五日子どもの日」本番では、推進員も手伝いに入ります。

成熟な年ごろで、失敗やトラブルには事欠かないけれど、いちいち大人に干渉されるのが嫌がります。そんな子どもたちに、世の中の仕組みや善悪、社会常識を伝えていきたい思いはあるのですが、これもままならないというのが、どこの地域でも現状ではないで



令和六年度 山形県青少年健全育成 県民大会

標記大会が十月二十七日に村山市民会館で開催され、県内関係者約二百名が参加しました。

「いじめ・非行防止セミナー」では、はじめに今年度の山形県少年の主張大会で最優秀賞を受賞した白鷹町立白鷹中学校三年井上愛奈さんが「障害を乗り越えて」の題で発表しました。次に東根市の三浦通夫さんが「子どものウェルビーイングを求めて」のテーマで事例を発表しました。最後に、「でっかい子育て人育て」と題して、クロフネカンパニー代表の中村文昭氏の講演がありました。ご自身の経験をもとに「頼まれごととは試されごと」など心に響く言葉の数々は、大人だけでなく青少年にもぜひ聞かせたい素晴らしい内容の講演でした。

来年度は庄内地区開催となります。令和七年十月二十六日に鶴岡市の「荘銀タクト鶴岡」を会場に開催されます。

◇大会での庄内地区の表彰者は次の皆様です。おめでとうございます。

☆県民会議表彰「青少年育成功労者」
加藤 眞様 和嶋 浩章様
古田 直子様

☆「いじめ防止」優秀標語作者
山形県立鶴岡養護学校
小学部五年 青木 まこさん

いじめ・非行をなくそう、
やまがた県民運動

令和六年度

『いじめ防止』標語

今年度も庄内地区五市町の小・中学校、
県立学校、計八一校の児童生徒の皆さんか
ら、一四、四五〇作品の標語の応募があり
ました。庄内地方青少年育成連絡協議会で
選定した結果、『庄内優秀作品』六一点を
次のように決定しました。

【庄内優秀作品】一覧

☆最優秀 1点 (庄内地区代表)

「それいいねー」
ともだち よいところ つたえよう

山形県立鶴岡養護学校小小学部

五年 青木 まこ

◎優秀 6点

見ないふり それもいじめの 共犯者

鶴岡市立温海中学校

一年 佐藤龍之介

友だちの やさしい心に イイネボタン

三川町立押切小学校

二年 荒生 乃亜

否定しないで 自分の存在 未来の希望

庄内町立余目中学校

三年 長南 蘭美

やさしい声かけやさしい笑顔
やさしい心で みんなハッピー

酒田市立南平田小学校

五年 千葉 雅春

毎日ねあなたの笑顔見たいんだ

遊佐町立遊佐小学校

六年 鈴木 愛海

ここにいる みんなだれかの だいじなのち

山形県立酒田特別支援学校中中学部

一年 金子 幸希

○優良 13点

「ごめんね」と いえるゆうきに きんメダル

鶴岡市立朝陽第五小学校

一年 布施 杏佳

気をつけて ネットにひそむ 黒いかけ

鶴岡市立鶴岡第二中学校

二年 阿部 夢々

認めあう あなたの個性は たからもの

鶴岡市立鶴岡第四中学校

三年 庄司 千乃

笑うなよ 僕の大事な チャームポイント

鶴岡市立鶴岡第五中学校

三年 阿部 椿姫

でこぼこな パズルのピースで 成り立つ世界

三川町立三川中学校

三年 太田

誰にでも 感謝の気持ちと 思いやり

庄内町立立川小学校

四年 大矢琉之祐

笑う 笑え 笑おう
みんなでつなく 笑顔のかけ橋

酒田市立若浜小学校

一年 佐藤 香凜

1に考え 2に決意
すぐに行動 いじめストップ

酒田市立西荒瀬小学校

五年 堀 錬斗

笑顔の種を作りましょう

笑顔の種を育てましょう

笑顔の種を広めましょう

酒田市立第一中学校

三年 井上 泰地

みんな友達 みんな仲間
みんなの笑顔が 私の笑顔に

酒田市立鳥海八幡中学校

三年 佐藤未七海

おもいやり してもされても えがおなる

遊佐町立遊佐小学校

一年 齋藤 翼

言葉の矢 助ける気持ち 愛の楯

山形県立致道館中学校

一年 阿部 結菜

いっぱいだけまえへ

てをのばしてたすけてあげよう

ストップいじめ

山形県立酒田特別支援学校中中学部

一年 太田 翔真

*佳作 41点

◆鶴岡市◆

「だってさあ…」いじめに理由 つけるなよ!

朝陽五小 一年 鈴木 怜弥

ごめんねが いえるあなたは すてきたね

豊浦小 一年 佐林 羽華

おもいやり みんなの気もち つなぐ糸

朝陽一小 二年 高橋 美路

仲間はすれ 軽い気持ちがいじめのはじまり

朝陽一小 三年 田中 秀汰

「どうしたの?」声かけひとつで 笑顔がもどる

鶴引西小 五年 鋸持 希愛

言葉の矢 ぬいてもものこる きずのあと

朝陽一小 五年 稲泉 妃珀

きみのよさ 私が第一 発見者

上郷小 五年 本間 羽琉

「やめようよ」小さな勇気で つなげる輪

鶴引東小 六年 明賀 璃音

許さない いじめる人も 見ぬふりも

鶴岡四中 二年 佐藤 希

向きあって 自分の心と 相手の気持ち

鶴岡四中 三年 高橋 伶桜奈

◆三川町◆

かえたいな いじめるひとと みるるべく

東郷小 一年 廣瀬 叶多

考えよう ことばひとつで かわるみらい

押切小 四年 菅原 楓

考えよう みんなだれかの 大事な人

横山小 五年 五十嵐 美桜

傷つけて いい人なんていないんだ

みんなで守る心と体

東郷小 五年 鞆田 結愛

変えられる 君の勇気の 一言で

三川中 三年 五十嵐 まお

◆庄内町◆

どうしたの いえるゆうきと きくゆうき

余目二小 二年 岩崎 蒼

いじめゼロ みんなで無くそう まずはおくから

余目三小 五年 佐藤 至

「ありがとう」「ごめんねさう」

人をつなぐ 合言葉

余目四小 五年 志田 梓

「あいさつ」は 笑顔になれる 合言葉

立川小 五年 石崎 叶井

「やめなよ」と たったの4文字 大きな一歩

余目四小 六年 松山 彪太

◆酒田市◆

こころのちよきんばこ いっぱいにしようね

ふわふわことばで

亀ヶ崎小 一年 田賀 楓乃

やさしさを まもろうえがお まもろういのち

松陵小 一年 石堂 凜音

広げよう 笑顔あふれる 明るい未来

広野小 一年 安藤 優吾

あいさつで えがおあふれる なかまのわ

十坂小 二年 佐藤 璃緒

どんなときでも たすけ合う

そんななかまに なりたいね

浜中小 二年 小林 みこ

「いっしょだよ」 つなぐ手と手

うまれるゆうき

若浜小 三年 住石 彩月

「思いやり」 心と言葉の キャッチボール

亀ヶ崎小 四年 渡邊 侑己

ワハハハハ ニコニコニコニコ 楽しい毎日

浜中小 四年 成澤 月心

思いやり 広がる笑顔 心の輪

富士見小 五年 堀 陽葵

咲かせよう 優しい言葉で 笑顔の花を

酒田六中 二年 大場 結衣

◆遊佐町◆

たすけるよ あたりまえでしょ ともだちだもん

遊佐小 二年 高橋 美羽

大丈夫? 思いきって 声かけよう

遊佐小 三年 武藤 陽希

その言葉 伝える前に 考えよう

遊佐小 四年 赤塚 凜

みとめあおう 人たちがうは こせいだよ

遊佐小 五年 池田 莉依奈

たすけてと きいてあげよう 心の声

遊佐中 三年 松本 琉奈

■県立学校■

そのいじめ 止めるためには 少しの勇気

致道館中学校 一年 菅原 鈴蘭

笑顔こそ 再生可能 エネルギー

致道館中学校 一年 池田 紡

違つこと みとめ合えれば 笑顔の輪

鶴岡養護学校小学部 五年 富樫 篤人

その言葉・行動・態度 お互い笑顔になれるかな…。

鶴岡養護学校小学部 六年 齋藤 寛太

みんながね 大事なひとりひとりだと

いつでも どこでも わすれない

酒田特別支援学校中学部 二年 黒沼 杏

笑顔はね! まわりを ほっこりする魔法

酒田特別支援学校中学部 三年 平向 滯

庄青協

庄内地方青少年育成連絡協議会主催事業
庄内青少年育成研修会 開催
テーマ「地域における青少年の育成」について

去る十月五日、酒田市公益研修センターを会場に青少年育成関係者等七十八名が参加し、標記研修会を開催しました。

講演では、山形まる語学校代表の菊地喜美子氏を講師に迎え、「言葉」は人を幸せにするための贈り物」〜思いやりの言葉「まる語」〜と題してご講演いただきました。講演後の参加者のアンケートからは、「言葉の大切さを改めて認識した」、「リラックスした雰囲気の話し方で、聞いている自分もリラックスできた」、「これからの活動に『まる語』を活かしていきたい」、「『間』を大切に伝えていきたい」などの感想が寄せられました。



事例提供では、はじめに酒田市立第三中学校生徒会執行部の三名の生徒から、「地域に生きる一人として主体的に地域と関わる」〜三コミ活動とマコモ植栽ボランティアを通して〜と題して、学校と地域が一体となって活動

を続けている「三コミ活動」の実践について発表していただきました。地域の一人員として主体的に取り組んでいる、地域



愛が生まれる活動である、生徒たち自身が伝統を受け継いで次に伝えようとしているなど、地域一体となった活動に感心する声が多く寄せられました。次に、酒田市松陵学区コミュニティ振興会「学びと遊びの楽校」運営委員長の久保英吉氏から、「笑顔あふれる『学びと遊びの楽校』を目標として『地域共育の推進』と題して、組織の設立目的や活動内容等について発表



していただきました。しっかりと学びと遊びの居場所づくり、地域人材の活用など、大変

参考になったとの感想が多く寄せられました。全体の反省として研修会の良さをもっとPRし、参加者を増やしてほしいとの声が多かったです。

来年度は山形県青少年健全育成県民大会が庄内地区開催のため、庄青協主催の研修会を兼ねて行う形になります。県民大会に庄内地区の皆様からぜひ多数ご参加くださるようお願いいたします。

庄青推

庄内青少年育成推進員
研修会 および
庄青推臨時総会

去る十一月十六日、三川町「テオトル」を会場に標記研修会を開催しました。

はじめに酒田市子ども未来課長の阿部美穂様よりご講演をいただき、最近よく耳にする「ヤングケアラー」という青少年に関わる新たな課題について学びました。地域の大人として、子どもの権利条約や人権をよく理解し、抱えている困難や課題を正しく「知る」こと、子どもの変化やサインに「気づく」こと、支援に関わる関係機関や人に「つなぎ・見守る」ことの三つを意識することから始めてはどうかとのご助言をいただきました。

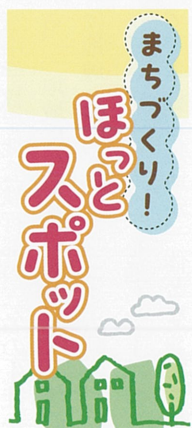
続いて酒田市の阿部哲也さんから

「⑧んかする⑨たる⑩のしむ」をテーマに具体的実践を交えた興味深い話題提供をいただいた後に、五班に分かれて情報交換を行い、地域の実態や悩みをじっくり語り合いました。



最後に、酒田市立東部中・庄内町立立川中の三年生二名から「いま伝えたい私のメッセージ」の素晴らしい発表をいただきました。参加者一同深い感銘を受け、充実した研修を終えることができました。

引き続き同会場場で代議員八名に参加いただきました庄青推臨時総会を開催しました。コロナ禍以降、代議員の総会参加数減少や、表彰における受賞者欠席などの課題が顕著になり、より効率的な協議会運営が求められ、今年度の総会以降、代議員制及び代議員による総会の廃止について理事会議等で検討を重ねてきました。今回は、総会廃止に関する規約改正及び表彰を総会以外で実施可能とする表彰規程改正の二案が、全会一致で可決されました。令和七年度からは、五市町からの「役員」五名による「会議」を核として、課題に対応する迅速な意思決定とより良い協議会運営に努めます。



鶴岡市
長沼わんぱく広場「ハイキング」
鶴岡市青少年育成推進員
藤島地域 蒞 谷 光 志

長沼地区では、小学一年生から六年生を対象とした「長沼わんぱく広場」の活動があります。スポーツや遊びなど集団活動を通じて、協力し合う気持ち



を身につけ、強くたくましく成長させることを目的とした活動です。現在団員数は、四十名で今年度は五回開催しました。
七月十四日(日)に行われた第二回長沼わんぱく広場では、大山下池ハイキングに行きました。鶴岡市自然交流館「ほとりあ」では、ラムサール条約や大山下池に棲んでいる鳥類や昆虫の説明を受けました。下池周りの林道コース四、五キロを自然観察しながら歩き、見たことのない珍しいトンボやキノコに驚きの声をあげていました。参加者からは、「自然の中でたくさん

遊べて楽しかった!」や「友達と一緒に新しい発見ができて嬉しかったです。」といった声が寄せられました。今回のハイキングは、子どもたちにとって貴重な自然体験となり、楽しい思い出を作ることができました。今後もこのようなイベントを企画し、地域の子どもたちに楽しい経験を提供していきたいと思っています。

鶴岡市
みんなが輝く!くしびき文化祭
鶴岡市青少年育成推進員
榊引地域 佐 藤 博 明

榊引地域では、例年「くしびき文化祭」として、「展示部門」と「発表部門(まなびいステージ)」に分かれて開催されています。今年度は十一月一日〜四日の間に展示部門、十一月十日に発表部門が行われ、会場は例年楽しみにされている観客の方々に賑わいました。

展示部門では、住民の方々や、地域の保育園・小中学生、福祉施設入居者の方々が、この日のために丹精込めて作り上げ



た芸術工芸作品がずらりと並び、見る人に癒しや活気を与えてくれます。発表部門である「まなびいステージ」では、日々の練習や活動の成果を発揮する場として、地域の小中学校吹奏楽部やダンスサークル、音楽サークル等々がパフォーマンスを披露するほか地区の貴重な伝統芸能を保存する目的で毎年披露するものもあります。

このような誰かの前で発表する場というのは、貴重なものです。コロナ禍でそういった場が途絶えてしまったところも多いと聞きますが、今後も地域一体となるこのイベントを盛り上げていきたいと思っています。

庄内町
愛着を持ってもらえる地域へ
庄内町青少年育成推進員
長 南 勝 雄

立谷沢地域では、コロナ禍を乗り越え、園児・小中学生と地域住民が交流を通して、愛着を育む事業を開催しています。

十月十三日(日)、立谷沢体育館を会場に「第一回清流の里秋祭り」を開催しました。
作品展示では、立川小学校の児童や認定こども園「からふる」の園児の作品をはじめ、地域の方々が日頃取り組んでいる文化活動の作品が見る人の目を惹かせていました。
大好評のキッズコーナーは、お菓子

つかみ取りや綿あめ、ポップコーンのふるまい、遊びと工作ブースなど終始賑わいをみせていました。
立谷沢地域に限らず、町内外からたくさんの方々に来場してもらい、子どもから大人まで楽しみながら交流できただけでなく、地域にも元気をもらい世代を超えた交流が生まれ、絆を深めることができたと思います。

これからも地域全体で子どもたちを育てていき、愛着を感じてもらえるような地域にしていきたいと考えております。



あとがき
「庄内青少年」一・二・三号の発行にあたり、特別寄稿、提言、「ほっとスポット」を執筆していただいた皆様に心からお礼申し上げます。前号から紙面構成を一部刷新し、各市町・地域の活動をより多く紹介する内容としています。

この会報が様々な場で話題になり、情報交換につながるなど、各市町の青少年育成活動の推進に少しでも役立つことを願っています。

